



南会津町立田島小学校だより

令和5年8月25日発行

田島小だより

No.8



2学期のスタート！

例年ない「酷暑」が続いた夏休みでした。その暑さにも負けず、コロナあけの長期休業でたくさん思い出ができた夏休みだったかと思います。

子供たちは休み中に多くの体験をしたと思います。今年の重点の一つ「キャリア教育」の観点からも有意義であったと思います。自分の夢に影響を与えた経験をした子供もいると思います。学期はじめに「キャリア・パスポート」をもとに「その夢実現のために今自分がやらなければならないこと」を再度確認したいと考えています。

さて、休みが明け、学校には子供たちの元気な声が戻ってきました。82日間の2学期ですが、長いうで、学校行事に取り組んでいくとあっという間に終わってしまいます。毎年話をしていますが、充実した学期とするためには「スタートをスムーズにすること」が重要です。そのためにまずは「早寝・早起き」を柱とした生活リズムを早めに取り戻すことが大切です。ぜひ各家庭で声かえをお願いします。

2学期、がんばってほしいことを以下のように「3びきのぞうん」をもとに、始業式で確認しました。

2学期

「い」ぞうさん

「かっこいいぞうさん」とは>

- 「3びきのぞうさん」に取り組んでいる人
- 命、まわりの人をたいせつにする人
- 夢実現に向けて頑張る人とは> 「ランプの精もみてるよ」
- 自分の夢をしっかり持っている人
- 夢をかなえるために、今できることをしっかりやる人

「い」ぞうさん

「かっこわるいぞうさん」とは>

- ▲ 危ないことを進んでする人
- ▲ 相手が「いやだな。」と思うことをする人
- ▲ ルールをやぶる人
- ▲ マナーを守れない人
- 夢を持てない人とは>
- ▲ やる気スイッチが入らない人
- ▲ 勉強も、運動もそして遊びも、真剣にできない人

毎日の生活で、特に頑張ってほしいこととして

「くつ(トイレのスリッパ)をそろえること」

「使わないときの電気のスイッチを切ること」を話しました。

整理整頓だけでなく、光熱費が高くなっていることを子供たちとともに考え、対応していきたいと考えています。家庭でも話題にしてみてください。

9月

1 (金) 避難訓練 引き渡し訓練

6 (水) クラブ活動

8 (金) 中学校を知ろう (6年)

14 (木) つどいの広場 (1年)

自由参観

18 (月) 敬老の日

20 (水) 児童会委員会組織

22 (金) 鼓笛パレード (予定)

秋に親しもう (1・2年)

23 (土) 秋分の日

25 (月) 視力検査 (5・6年)

26 (火) 視力検査 (3・4年)

集金日

27 (水) 小体連陸上大会

視力検査 (1・2年)

※ 3年生歌舞伎練習が入ります。



「郡PTA研究大会 只見大会」～「弁当の日」講演～

「少子高齢化社会」が課題となり、現在政府でも「児童手当対象の変更」など経済的な補助やその他制度的な変更を政策として進めています。このことは、とても重要です。でも、特に金銭的に補助しても、一人の子供にかける金額が多くなるだけで、子供の数を増やすといった少子化の解決につながらない可能性もあり、



もっと「子育てが楽しい」「子育てに喜びを感じる」ことがないと、解決にはつながらない。

と、私自身は感じていました。

このことに対して示唆をいただけたのが、今回の郡PTA研究大会での竹下和男先生の講演でした。概略となり、十分先生の意図が伝わらないかと思いますが、紹介させていただきます。

講演のスタートは「はなちゃんのみぞ汁」でした。お母さんを癌で亡くしたはなちゃんが、失敗しながらもお父さんのみぞ汁を作り、お父さんはその喜びをはなちゃんに伝える話でした。(その過程で幼い我が子を残していく母親が、みぞ汁の作り方を我が子に残していくという実話です。) はなちゃんは経験の中で

「相手が喜ぶことをイメージして行動できる人間」へと成長していくことができました。

この他者を思いやる感情をつかさどる脳は、6～20歳に一番成長するそうです。



この経験で得た思いやる感情は自分の子供たちにつながっていきます。

(以下の一節は、講演後私が感じた内容です。)

夏休み中、中学校では部活動の県大会等が行われました。その部活動の大会で一緒に応援し、一緒に勝ちを喜び、一緒に悔し涙を流した保護者の方は、多分ご自分が子供の時、同じような経験をご両親とともにしたのではないでしょうか。つながっていくのです。

しかしながら、現代の若者は「過度な個人主義」や「受験戦争・競争社会」により、この経験が少なくなっています。そのため、子育てにおいて、自分の行動によって子供の喜ぶ姿をイメージすることが苦手な人が多くなり、子育てに喜びを十分に感じることができなくなっているとのことでした。相手が喜ぶ姿をイメージできる経験を、

料理を通して行い、相手を思いやることができ、「子育てに喜びを感じる」大人(子育てに積極的な大人)へ成長を促したい

とのことでした。料理を行う上では調理するスキルが必要となってきます。スキルを高めるため学校では指導を行い、上記経験を味わわせるため「弁当の日」の取組を進めているとのことでした。

子育てにおいて注意することとして、講演では「子供は置かれた環境に適応する。」とも。

大人が「子育ては大変だ。大変だ。…」といつていれば、その子供も、「子育ては大変」と考える。

以前の学校だより7月号①で「モデリング」について記載しました。まさに、同じことであったと感じました。

その他にも紹介したい内容が多い講演会でした。もっと多くの方に聞いていただければよかったですと感じました。機会がありましたら、ぜひ竹下和男先生の講演をお聞きください。

※ 本当に簡単にまとめてあります。先生の考えとズレてしまっている内容がありましたら、ご容赦ください。身近に講演会に参加された方がいる場合はぜひお聞きください。